

## 研究概要

### 1. 研究名称 または課題名テーマ等

高齢者の足関節骨折術後の早期荷重の検討 多施設コホート研究

### 2. 研究責任者(当院)

所属：整形外科

氏名：梶原大輔

#### 共同研究の場合は代表機関 及び 代表者名

機関名：千葉大学大学院国際学術研究院

代表名：山口智志

### 3. 分担研究者

所属：整形外科

氏名：南昌平、小谷俊明、岸田俊二、佐久間毅、上野啓介、飯島靖、奥山晃平、坂下孝太郎、中野志保、稲熊佳代、梅田涼、鈴木徳孝、野苺家舜、高山泰亨

### 4. 研究対象者

2021年01月01日～2022年12月31日の間に、聖隷佐倉市民病院において〔65歳以上の足関節骨折にて観血的整復固定術〕を受けた又は受ける方で、且つ個別に同意を得た方。

### 5. 研究の必要性

高齢者の骨折 (geriatric fracture) は、超高齢社会を迎えた本邦のみならず、世界的に増加している。足関節骨折は、高齢者における骨折の8%を占め、骨粗鬆症に伴う脆弱性骨折のひとつと考えられている。足関節骨折の術後には4-6週と長期間の免荷を要する。さらに、高齢者では骨粗鬆症や身体機能低下が術前より存在するために術後の移動移動機能低下やADL低下が問題となる。

足関節骨折術後は、早期荷重した方が関節拘縮や筋力低下を減らすため、機能回復がよいと報告されている。しかしその一方で、術後早期にリハビリテーションを開始すると、骨折部の転位や創部治癒遷延のリスクを増大させる可能性もある。近年、若年者における足関節骨折術後に早期荷重を行うことにより早期の機能回復が得られ、合併症も増加しないことが報告されている。しかし、高齢者の足関節骨折においても早期荷重による利益が得られるかどうかは明らかになっていない。

本研究の目的は、高齢者における足関節骨折術後に早期荷重を行うことにより、合併症を増やすことなく早期の機能回復が得られるか、を検討することである。

### 6. 研究等によって生ずる個人への影響と医学上の貢献の予測

利益：本研究により被験者が直接受けることができる利益はない。

不利益：術前、術後6、12、24、48週の外来受診時に、質問票の記入を行う。記入に要する時間は15分程度であり、健康上問題となる可能性はない。診察の待ち時間を利用して記入していただくなど、患者の負担軽減に留意する。

本研究の結果は、患者の疑問に答えるためのデータを提供する。また、もし高齢者の足関節骨折において早期荷重による利益が得られることが明らかになれば、足関節骨折後の早期社会復帰、ひいては医療費の削減にも寄与し、より大きな臨床的意義があることが示される。

### 7. 対象者、関係者等からの問合せ先(当院)

連絡先番号：043-486-1151(代表)

担当者氏名：梶原大輔

対応時間：平日9:00~17:00

#### 共同研究において専用窓口がある場合

研究事務局（千葉大学大学院医学研究院整形外科学内）

住所：260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1

電話：043-226-2117 Fax：043-226-2116

担当：木村青児（千葉大学大学院医学研究院整形外科学）Email：kimu0803@gmail.com

#### ※ご注意

対象者とは、本研究に参加された方です。お問合せは、本研究に参加された方と研究関係者のみで、その他の方へのご対応はできませんので、予めご了承ください。